

シニアネットワーク東北

平成28年度活動報告書

平成29年6月8日

平成 28 年度活動報告書について

シニアネットワーク東北

代表幹事 工藤昭雄

「平成 28 年度の学生との対話活動」は、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故以来 6 年を経過してなお、脱原発、卒原発の声がある中、シニアネットワーク東北は「原子力発電の啓蒙、普及を図る」と言う本来の目的に沿って計画通り、長岡科学技術大学（6 月）、青森大学（11 月）、山形大学（12 月）、東北大学（12 月）、福島高専（1 月）、宮城学院女子大学（1 月）、仙台高専（1 月）、八戸工業大学（2 月）、東北学院大学（2 月）の 9 校で実施することができた。今年度からは東北電力から提供して頂いた教育用の放射線計測器「ミスターガンマ」8 台を対話活動に導入し、測定を通して身近な放射線を実感出来るよう活用している。

対話集会は[地球環境とエネルギー問題]、[放射線と放射能]などのテーマで基調講演を行った後、学生 4～8 名のグループにシニア 2 名が加わり基調講演のテーマに基づき 1～2 時間の対話を行うパターンが定着してきた。しかし、東北大学のように学生側の希望で基調講演なしに対話だけを目的としたやり方も試行され、より実のある対話活動が模索されている。

対話の内容は「原子力発電は必要か」と「放射能・放射線に対する安全基準はどうなっているのか」ということが中心になっていたが、マスコミの脱原発の論調に流されず、原子力発電の必要性が正しく認識されてきている事が、対話を通して実感されるようになった。

原子力発電の再稼働について地元の合意形成のため、また社会問題になっている「風評被害」や学校での「いじめ」問題予防のため、放射能・放射線に対する理解浸透を図る必要があり、日本原燃のエコ教室への講師派遣や一部営業所でのセミナーも開催した。

一方、原子力技術の伝承を目的に、平成 19 年度以降毎年、東北電力の原子力部門新入社員教育に参画している。

ここにこれらの活動の概要を纏めて報告します。

シニアネットワーク東北 平成28年度活動報告

1. 第8回定期総会

日時 平成28年6月9日(木) 15:00~15:50

場所 東北エネルギー懇談会会議室

- ・平成27年度の活動報告、会計報告が承認され、平成28年度活動計画案、収支予算案も原案通り承認された。

記念講演 (第20回勉強会参照)

2. 対話活動

(1) 東北電力原子力部門新入社員との対話

日時 平成28年5月26日(木) 10:00~17:20

場所 仙台市 東北電力本店ビル1A会議室

参加者 SNW東北:5名、SNW連絡会:5名、新入社員:39名と対話。

基調講演 SNW東北副代表幹事 矢野歳和氏

「放射線とエネルギー問題」と題して我が国のエネルギー問題と原子力の役割等について講演した。

対話 基調講演の後、5グループに分かれて新入社員と対話し、対話後受講生が1分間スピーチを行った。

(2) 長岡技術科学大学 SNW連絡会と共催(5回目)

日時 平成28年6月22日(水) 13:00~16:30

場所 長岡技術科学大学 原子力システム安全棟

参加者 合計23名

長岡技術科学大学 大塚雄市准教授

長岡技術科学大学大学院生 14名

SNW東北:4名 SNW連絡会:4名

基調講演 「原子力の問題を考える」と題してSNW東北の阿部勝憲氏が講演

今回で5回目となる対話会が開催され学生14名、シニア8名が参加した。30分の基調講演の後、参加者全員が4グループに分かれ、約1時間半にわたり予め設定されたグループごとの対話テーマに焦点を当てた対話を実施した。対話後に全員が集合して、グループごとの発表と質疑応答が活発に行われた。この対話は同学におけるリスクコミュニケーションの実践課程の一環として実施されている。

(3) 青森大学 (7回目)

日時 平成28年11月16日(水) 14:40~17:30

場所 青森大学 6号棟

参加者 学生: ソフトウェア情報学部、経営学部、社会学部学生1~4年生 計35名

教官: ソフトウェア情報学部 矢萩正人教授

SNW東北 6名

基調講演1 涌沢光春幹事 「地球環境とエネルギー」

1枚のレジメと説明用の冊子「暮らしの中のエネルギー」を用いて、口頭で、石油危機、S+3Eのキーワードで解説した。

基調講演2 高橋 實幹事 「放射線と放射能」

持参した放射線計測器「ミスターガンマ」8台を使用して放射線計測の実習を行った後、パワーポイントを使って放射線は身の回りにありふれていること、問題はその量であることなど説明した。

基調講演の後、3グループに分かれて約1時間の対話を行った。

(4) 山形大学 SNW連絡会と共催 (6回目)

日時 平成28年12月5日(月) 13:00~17:00

場所 山形大学工学部(米沢市城南4-3-16)

ものづくりセンターA 2F 創成支援室

参加者 教官: 大学院理工学研究科 東山禎夫教授、杉本俊之准教授

学生: 電気・電子工学専攻 3年生41名

シニア: SNW東北:6名、SNW連絡会:6名

基調講演

講師 大塔容弘氏 SNW連絡会

演題 「5年が経過した福島原発の現状と今後」

山形大学工学部でSNWとの対話会を行うのは昨年に続き3回目で、電気電子工学3年生の「電力工学」を受講した学生に対して授業の一環として行っている。

基調講演の後4班に分かれ、各班数名の学生とシニア2人が学生から出された質問を話題に対話した。

(5) 東北大学工学部 SNW連絡会との共催 (11回目)

日時 平成28年12月21日(水) 13:00~17:45

場所 東北大学青葉山キャンパス 量子エネルギー工学専攻

参加者 量子エネルギー工学専攻学生 M1, B4 計 33 名

教官： 長谷川教授、新堀教授、千田助教

シニア： SNW東北：6名、SNW連絡会：5名

オブザーバ： 日本原燃 田中治邦氏、日本電気工業会 多田信雄氏

今回で 11 回目となる東北大学での対話会の今回の最大の特徴は、昨年度から大学側の要望で対話時間を最大限確保することで計画したこと。

今回も昨年同様基調講演なしで、事前質問を受けた上で、対話に約 3 時間割り当てた。テーブルを 4 つに分け、シニアは下記テーマおよび共通テーマ（学生に求められる能力とは何か）を担当した。

A グループ：原子力の将来

B グループ：次世代炉・高速増殖炉・核融合

C グループ：放射性廃棄物の処分

D グループ：福島第一の廃止措置

参加学生も 4 Gr 構成で、各 Gr は共通テーマと上記 4 テーマのうち 2 つのテーマを選択し対話を行った。

対話終了後、学生各 Gr が共通テーマおよび選択 2 テーマにつき纏めの発表を行った。今回も質の高い対話ができ、シニア側にとっても有意義であった。

(6) 福島工業高等専門学校 SNW 連絡会と共催 (2 回目)

日時 平成 29 年 1 月 12 日 (木) 13:00~17:30

場所 福島工業高等専門学校本館 (いわき市平上荒川字長尾 3 0)

参加者 教官：鈴木茂和准教授、
学生：計 50 名 (各学科 1~5 年生)

シニア：SNW東北 5 名、SNW連絡会 6 名

基調講演 講師 針山日出夫氏 SNW連絡会幹事

演題 「軽水炉の高経年化対策と廃炉措置」

基調講演の後 5 班に分かれ、各班数名の学生とシニアが学生から出された質問を話題に対話した。

今回は昨年と比べ参加人数も増え、特にコミュニケーション情報学科も初めて参加し、女子学生が多かったのも特徴である。

(7) 宮城学院女子大学 ミニ講義 (6 回目)

日時 平成 29 年 1 月 20 日 (金) 10:30~12:45

場所 宮城学院女子大学学芸学部 生活文化デザイン学科

参加者 本間教授ほか、3 年生 16 名

SNW東北 6 名

ミニ講義「放射線の基礎」 講師：松野秀男幹事 30 分

ミニ講義のあと、3 グループに分かれて放射線計測器を使った環境放射線の計測

実習と対話を行った。特に放射線の計測実習をしたのち対話に入ったことで、話にも興味を持てたものと思う。

(8) 仙台高等専門学校 (7回目)

日時 平成29年1月26日(木) 12:50~15:50

場所 仙台高等専門学校名取キャンパス 専攻科棟2F教室他

参加者 内海康雄副校長・教授 専攻科学生:6名、事務局:1名
SNW東北:4名

基調講演1. 涌沢光春幹事 「エネルギーと環境」

基調講演2. 高橋 實幹事 「日常生活の中の放射線」

基調講演と「ミスターガンマ」を使用した放射線の測定実習を行った。
講演と実習の後、原子力や環境問題について対話を行った。

(9) 八戸工業大学 SNW連絡会と共催 (11回目)

日時 平成29年2月3日(金) 13:00~17:00

場所 八戸工業大学 メディアセンター1階メディアホール

参加者 八戸工大学生 43名(機械情報技術、電気電子システム、システム情報、
バイオ環境工学・・・各学科の3年生)
教職員 4名、SNW東北 6名、SNW連絡会 6名

基調講演 大塔容弘氏 SNW連絡会

演題 「地域経済と原子力産業を考える」

基調講演はわが国の原子力開発の歴史、原子力事業の六ヶ所村立地の経緯と現状という内容であった。その後グループに分かれ、学生が提起した原子力産業の立地のメリットと問題点を中心にSNWのメンバーと活発に対話を行った。参加学生は理系であるが、原子力産業が地域経済に与える影響について理解を深め、学生にとって技術と社会の関係性を学ぶ良い機会となった。

(10) 東北学院大学 (8回目)

日時 平成29年2月14日(火) 13:00~17:00

場所 東北学院大学工学部(多賀城キャンパス)3号館331教室

参加者 学生:電気情報工学科3年生(佐藤・石川研究室)19名
教官:石川和己教授
SNW東北 6名

基調講演1 高橋 實幹事 「日常生活の中の放射線」

基調講演 2 栗野量一郎幹事 「地球環境とエネルギー問題」

今回は基調講演に続いて「ミスターガンマ」を使った放射線計測の実習をしてももらった後、3グループに分かれて対話を行った。対話の時間を従来より長い90分としたのでより充実した対話ができる。

(11) 風評被害予防キャンペーン活動

原子力の再稼働に係る風評被害予防（情報提供）を目指して平成28年度は東北電力栗原登米営業所の検針員や所員を対象とした勉強会、青森アスパム・エネルギー館で主に女性を対象にした講演と対話、および日本原燃の企画であるが一般市民、特に主婦層を対象とした放射線やエネルギー問題の勉強会である「原燃ECOスクール」に合計8回講師として参加し講演を行った。

・東北電力栗原登米営業所での講演

日時 平成28年5月31日（火）11:00～12:00

場所 東北電力栗原登米営業所

参加者 営業所検針員 約20名、営業所員 角田所長ほか約10名
SNW東北 山田副代表幹事（講演）、高橋（實）幹事

演題 放射線の基礎 一身の回りの放射線—
検針員の打ち合わせの時間の一部を使った講演で、資料に基づき放射線の基礎、影響、身の回りの放射線、食品関係、放射線の利用などについて分かり易く説明した。

・青森アスパム・エネルギー館主催セミナー

日時 平成28年11月23日（水）13:00～14:40

場所 青森県観光物産館アスパム 5階会議室「白鳥」

参加者 青森市民（主に主婦層16名）、SNW東北 3名、オブザーバ（東日本興業3名）

基調講演 矢野歳和副代表幹事 「女性のための放射線基礎知識講座」

初心者を対象とする。講座名称は前回「お母さんの放射線基礎知識」から「女性のための放射線基礎知識講座」へ対象範囲を拡大した。

・日本原燃主催「原燃ECOスクール」への講師派遣

- ① 5月17日（火） 弘前市 矢野副代表幹事
- ② 5月18日（水） 青森市 工藤代表幹事
- ③ 5月19日（木） 青森市 工藤代表幹事
- ④ 5月20日（金） 八戸市 山田副代表幹事

- ⑤ 10月17日(月) 青森市 山田副代表幹事
- ⑥ 10月18日(火) 青森市 山田副代表幹事
- ⑦ 10月19日(水) 弘前市 工藤代表幹事
- ⑧ 10月20日(木) 八戸市 松野幹事、安保会員

3. 会員勉強会

総会や拡大幹事会に合わせ、会員を対象に勉強会を実施した。

(1) 第20回会員勉強会(第8回定期総会での記念講演)

日時 平成28年6月9日(木) 16:00~17:30

場所 東北エネルギー懇談会会議室

参加者 25名

講師 元NUMO理事、元核燃料サイクル開発機構理事 河田東海夫氏

演題 「我が国の核燃料サイクルの歴史的経緯と今後の課題」

原子力開発の黎明期からの歴史から始まり、その後数度の浮沈を繰り返し現在に至っている事、そして今後の課題についてわかりやすく説明して頂き、充実した90分となった。

4. 幹事会・拡大幹事会 原則毎月第4月曜日 (必要に応じて臨時)

- (1) 第72回 平成28年4月18日
- (2) 第73回 平成28年5月23日
- (3) 第74回 平成28年6月20日
- (4) 第75回 平成28年7月19日
- (5) 第76回 平成28年9月20日
- (6) 第77回 平成28年10月25日
- (7) 第78回 平成28年11月28日
- (8) 第79回 平成28年12月19日
- (9) 第80回 平成29年1月30日
- (10) 第81回 平成29年2月27日
- (11) 第82回 平成29年3月27日

5. 「SNW連絡会・エネルギー問題に発言する会」合同運営委員会への参加

原則毎月第3木曜日(8月は休会)

(場所) 原子力安全推進協会(JANSI)会議室

情報収集およびSNW連絡会との共催対話活動の円滑化等のため参加し、拡大幹事会で報告、必要に応じて会員にもメール等で紹介した。

6. 平成 28 年度参加シンポジウム、見学会など

(1) 参加シンポジウムなど

・「エネルギー講演会」

日時 平成 28 年 7 月 22 日（金）13：00～16：00、

主催 東北エネルギー懇談会

場所 ウェステインホテル仙台 2階（竹）

講演 1 「本義」を見失わなかった男たち～極限にたつ日本人の底力～

講師 門田隆将氏（ジャーナリスト・ノンフィクション作家）

講演 2 「豊かさと安全とエネルギー」

講師 大宅映子氏（評論家・大宅壮一文庫理事長）

参加者 約 300 人（SNW 東北 8 人）

・第17回 SNW シンポジウム テーマ「エネルギーは我が国の生命線/このままで大丈夫か」

主催 （社）日本原子力学会シニアネットワーク連絡会

日時 平成 28 年 10 月 15 日（土）13：00～17：30

場所： 東京工業大学デジタル多目的ホール（大岡山キャンパス西 9 号館）

出席者： 約150名 SNW東北から 阿部勝憲、矢野歳和

基調講演 1 「原子力の正しい進ませ方と止めさせ方」 石川和男氏（NPO 社会保障経済研究所代表）

基調講演 2 「原子力の安全性はどこまで向上したか」 諸葛宗男氏（元東京大学特任教授）

パネル討論 その後5人によるパネル討論で原子力の必要性を論じた。

・「エネルギー講演会」

日時 平成 28 年 10 月 27 日（木）15：30～17：00、

主催 東北エネルギー懇談会

場所 ウェステインホテル仙台 2階（竹）

講演 「地球温暖化対策に向けた取り組みについて」

講師 東京大学公共政策大学院客員教授 本部 和彦氏

参加者 約 300 人（SNW 東北 10 人）

・原子力国民会議 原子力集約全国大会

日時 平成 28 年 12 月 1 日（木）

主催 一般社団法人原子力国民会議、エネルギーと経済・環境を考える会
場所 東京サンケイプラザホール
参加者 約 650 名 (SNW東北 工藤代表幹事)
講演 “もんじゅの使命と今後の展望” 岡本孝司 (東大教授)

・東北大学流体科学研究所 第3回公開講座 「今、エネルギーを考える」

主催 東北大学流体科学研究所
日時 平成 29 年 2 月 4 日 (土) 13:00~16:15
場所 東北大学片平キャンパス 流体力学研究所 2 号館 5 階大会議室
講演 1 「安全規制は事故から何を学んだのか」
講師/東北大学特任教授 平岡英治氏
講演 2 「福島事故後の放射線による健康影響について」
講師/東北放射線科学センター理事 宍戸文男氏 (福島県立医大名誉教授)
参加者 約90名 SNW東北から10名参加。 2名は受付を担当し協力

・平成 28 年度・地層処分事業に関する学習の機会提供事業・交流会

日時 平成 29 年 2 月 18 日 (土)
場所 東京都 AP 浜松町 会議室
主催 日本原子力文化財団
出席者 山田副代表幹事
事業計画の説明会と意見交換会に参加

・原子力学会春の年会 企画セッション：シニアネットワーク・セッション (一般公開)

日時 平成 29 年 3 月 29 日 (水) 13:00~14:30
場所 東海大学湘南キャンパス (神奈川県平塚市) 16 号館 206 号室
参加者 約 20 名 ほとんど SNW メンバーで学生は少数 SNW 東北から阿部幹事
「対話 10 年の報告と新しい方式について」と題した企画セッション
座長は早野睦彦氏、講演は 3 件 (各 20 分)、フロアとの意見交換 (20 分)

・平成 28 年度第 4 回原環センター講演会

「スウェーデンとカナダにおける地層処分事業の社会的側面の取り組み」
講演者 講演者：原子力環境整備促進・資金管理センター 佐原 聡氏
日時 平成 29 年 3 月 28 日 (火)
場所 東京都 日本交通協会 大会議室
主催 原子力環境整備促進・資金管理センター

参加者 山田副代表幹事

・エネルギー戦略研究会(EEE会議)第 233 回研究会

「我が国のエネルギー問題の現状」

講演者 関西電力 顧問(元社長) 藤 洋作氏

日時 平成 29 年 3 月 28 日(火)

場所 新虎ノ門倶楽部(外務省OB専用施設、東京都港区虎ノ門 晩翠ビルB1)

主催 エネルギー戦略研究会(EEE会議)

参加者 山田副代表幹事

(2) 見学会について

・青森原子力施設見学会

日時 平成 28 年 10 月 12～13 日

参加者 SNW 東北会員 8 名

視察先

- ・量子科学技術研究開発機構 核融合エネルギー開発部門六ヶ所核融合研究所
- ・日本原燃株式会社
- ・環境科学技術研究所
- ・東北電力東通原子力発電所

対話活動に資するため今回初めて県外の見学会を行った。

・幌延深地層研究センター訪問

日時 平成 28 年 12 月 7～8 日

参加者 山田副代表幹事(他に石巻専修大学の教授と学生 3 名、東北大学の学生 3 名の計 8 名)

視察先 幌延深地層研究センター

この視察は日本原子力文化財団が旅費を全額支給してくれたもので、山田副代表幹事が「若者と地層処分を学ぶ会(東北)」という団体として企画・応募し、認められたもの。参加者の多くは若い世代で、地層処分の実情を見学し深く理解した。

7. SNW東北のホームページの維持・管理・更新

会の運営に当たっては、電子メールによる情報交換をベースとすることで発足したが、これを補完するものとして、また一般の方への情報発信の手段としてホームページを作成して運用している。会員に対しては「会員のページ」も設け、会の活動状況の詳細を

把握できるようにしている。内容は必要に応じ随時更新している。

(ホームページ：<http://www.snwtohoku.jp>)

(参考) 平成 28 年度の「学生と対話活動」へのシニア参加者

実施月日	実施大学	学生数	SNW 東北と SNW(東京)の参加者	備考
6/22 (水)	*長岡技術科学大学	14 名	SNW 東北 4 名 (馬場、工藤、矢野、阿部) SNW (東京) 4 名	5 回目
11/16(水)	青森大学	35 名	SNW 東北 6 名 (清野、工藤、矢野、高橋實、涌沢、栗野)	7 回目
12/5(月)	*山形大学工学部	41 名	SNW 東北 6 名 (工藤、矢野、阿部、岸、栗野、山田) SNW (東京) 6 名	3 回目
12/21(水)	*東北大学	41 名	SNW 東北 6 名 (阿部、工藤、岸、高橋實、矢野、栗野) SNW (東京) 5 名	11 回目
1/12(木)	*福島高専	50 名	SNW 東北 5 名 (阿部、工藤、山田、涌沢、栗野) SNW (東京) 6 名	2 回目
12/20(金)	宮城学院女子大学	16 名	SNW 東北 6 名 (松野、高橋實、矢野、安保、栗野、岸)	6 回目
1/26(木)	仙台高専	6 名	SNW 東北 4 名 (工藤、水原、涌沢、高橋實)	7 回目
2/3(金)	*八戸工業大学	43 名	SNW 東北 6 名 (工藤、阿部、岸、矢野、栗野、安保) SNW(東京)6 名	11 回目
2/14 (火)	東北学院大学	19 名	SNW 東北 6 名 (工藤、阿部、岸、高橋實、水原、栗野)	8 回目

*はSNW連絡会と共催

参加学生 265 名 SNW東北会員延べ 49 名

以上